

## 遂に公開スタート！ 静嘉堂文庫所蔵の古典籍（和書）を国文研でデジタル化 重要文化財を含む2,069点・約39万枚のデジタル画像が 「国書データベース」で閲覧可能に

### 概要

国文学研究資料館（以下「国文研」）と公益財団法人静嘉堂 静嘉堂文庫（以下「静嘉堂文庫」）は、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」におけるデータベース構築に関する覚書を、2022年に締結しました。

国文研は、静嘉堂文庫が所蔵する古典籍のうち、当面マイクロフィルム化されている資料を中心にデジタル化し、「国書データベース（<https://kokusho.nijl.ac.jp/>）」により順次公開していきます。

公開される画像は、国書データベースでどなたでも無料で見ることができます。



静嘉堂文庫外観（世田谷区岡本）

静嘉堂文庫は、岩崎彌之助（1851～1908 彌太郎の弟、三菱第二代社長）と岩崎小彌太（1879～1945 三菱第四代社長）の父子二代によって創設・拡充され、現在、国宝7件、重要文化財84件を含む、およそ20万冊の古典籍（漢籍12万冊・和書8万冊）と6,500件の東洋古美術品を収蔵しています。

閲覧には予約が必要です。

詳細はホームページをご参照ください。

### 今回公開資料概要

第1弾として、マイクロフィルム「歌学資料集成」「物語文学書集成」第1～5編、（いずれも丸善雄松堂販売）2,069点の画像をデジタルコンバートにより作成し公開しました。

※[公開資料一覧へ](#)



### 本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館  
古典籍共同研究事業センター事務室 管理係  
E-mail: [cijinfo@nijl.ac.jp](mailto:cijinfo@nijl.ac.jp)  
TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883  
<https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/>

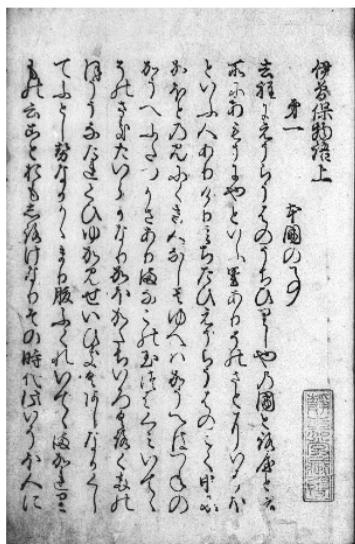
公益財団法人静嘉堂 静嘉堂文庫  
閲覧対応係  
E-mail: [etsuran@seikado.or.jp](mailto:etsuran@seikado.or.jp)  
<https://www.seikado.or.jp/about/seikadoubunko.html>

## 公開資料ピックアップ

今回公開した資料の一部をご紹介します（参考：『静嘉堂文庫の古典籍 第3回』平成10年 静嘉堂文庫）

## 『伊曾保物語』

（いそほものがたり）



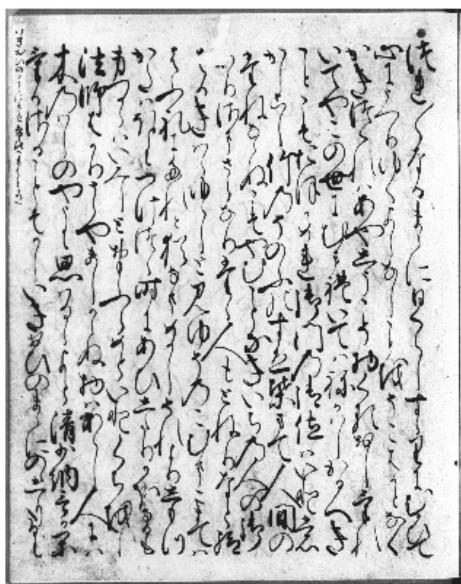
文禄2（1593）年にイエズス会が刊行したローマ字体の『イソポ物語』（イソップ物語）に影響を受け、日本語で刊行された仮名草子。古活字本や絵入り版本が多く刊行されたが、本書は慶長（1596-1615）中頃の、古活字本中最古の版。（104函33架）

URL: <https://doi.org/10.20730/100438420>



## 『徒然草』

（つれづれぐさ）



本書は『徒然草』の現存する書写年代が明らかな最古の写本で、室町時代を代表する歌人の一人である正徹（しょうてつ）の書写とされる「正徹本」として有名。永享3（1431）年の書写。国の重要文化財に指定。

（96函25架）

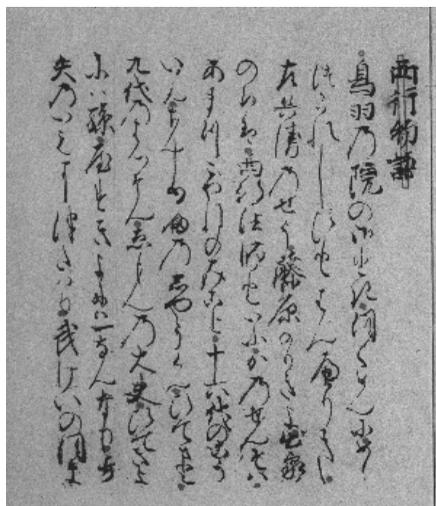
URL:

<https://doi.org/10.20730/100438458>



## 『西行物語』

（さいぎょうものがたり）



平安時代から鎌倉時代の歌人、西行（1118-1190年）の一生を記した物語。西行は『新古今和歌集』などの勅撰集にも多くの和歌が採択されている当代きっての歌人。本書は現存する『西行物語』中、最古の書写本と言われている。国の重要文化財に指定。（105函1架）

URL: <https://doi.org/10.20730/100438358>



『静嘉堂文庫国書分類目録〔正〕』（静嘉堂文庫、1929刊）・『同 続』（1939刊）・『同 再続』（1956刊）に掲載された日本の古典籍の書誌情報についても「国書データベース」で公開しました。静嘉堂文庫の日本の古典籍の書誌情報についてはこれまでこれら紙の目録で探す必要がありましたが、資料の検索が容易にできるようになり、利便性が高まりました。

## 画像の報道利用について

本リリースに使われた画像は、報道目的の場合のみ利用可能です。

[https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/20231107\\_release\\_supple.zip](https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/20231107_release_supple.zip)（令和6(2024)年3月31日まで公開）

## 静嘉堂文庫および国文学研究資料館のご紹介

## 堂 嘉 静

「静嘉堂」の名称は、中国の古典『詩経』の大雅、既醉編の「籩豆静嘉（へんとうせいかに）」の句から採った岩崎彌之助の堂号で、祖先の霊前への供物が美しく整うの意です。

静嘉堂文庫は、岩崎彌之助が明治25（1892）年、神田駿河台（東京都千代田区）の自邸内に創設した文庫「静嘉堂」を起源としています。彌之助は兄で三菱創設者である岩崎彌太郎に従って実業界に入る以前、漢学を学んだ経験があり、恩師である重野安繹（成斎）の研究を援助する目的から古典籍の収集を始め、和漢の古書や古美術品の収集を熱心に行いました。明治40（1907）年には清の集書家、陸心源の「皕宋楼」旧蔵書4万数千冊を購入し、宋・元の版本多数を含む貴重なコレクションが文庫にもたらされています。

彌之助の死後、その子・岩崎小彌太は、父の遺志を受け継ぎ文庫を拡充。明治44（1911）年に岩崎家の高輪別邸（東京都港区）に移転し、諸橋轍次（1883～1982）文庫長の下、活動が継続されます。さらに大正13（1924）年、小彌太は父の17回忌に世田谷区岡本にある玉川霊廟（ジョサイア・コンドル設計）の側に現在の文庫（桜井小太郎設計）を建設し広く研究者への公開を開始しました。昭和15（1940）年には財団法人静嘉堂を創立し、蔵書や文庫の施設など一切を財団に寄付しました。

昭和52（1977）年からは付属の展示室を設けて静嘉堂の収蔵する美術品の公開を開始し、平成4（1992）年には創設100周年を記念して、新たに静嘉堂文庫美術館を建設・開館しました。そして平成21（2009）年、公益財団法人の認定を受けました。

静嘉堂文庫美術館の展示ギャラリーは、令和4（2022）年10月に、美術館の開館30周年ならびに三菱創業150年（令和2（2020）年）の記念事業の一環として東京都千代田区丸の内内の明治生命館に移転しました。移転したのは展示ギャラリーのみで、静嘉堂文庫（書庫）の業務、および庭園の管理等は引き続き従来の世田谷区岡本で行われています。

【公益財団法人静嘉堂 ホームページ】

<https://www.seikado.or.jp/>



国文学研究資料館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとする様々な分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。

平成26（2014）年度からは、人文系では初の大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」がスタートしており、国文研が中心となって国内外の大学等と連携し、日本語の歴史的典籍のデジタル化と、国際共同研究ネットワークの構築を推進しています。

令和5（2023）年3月、国内外の機関や個人が所蔵する、江戸時代以前の日本の書籍（古典籍）を中心とした資料の書誌情報と全冊デジタル画像を無料で公開する総合データベースとして国書データベースを公開しました。収録されているのは、約580の機関・個人が所蔵する資料の書誌80万件と、うち約200の機関・個人が所蔵する資料22万5,000点のデジタル画像であり、画像データの撮影枚数は2,400万枚です（2023年4月末日現在）。あらゆる分野の日本の古典籍を収録対象としています。

【国文学研究資料館 ホームページ】

<https://www.nijl.ac.jp/>

【日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画】

<https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/>